

浮野の里で『ノウルシ』が見ごろに

加須市多門寺・北篠崎地内の緑のトラスト保全第10号地「浮野の里（うきやのさと）」で、4月初旬から中旬にかけて『ノウルシ』が見ごろを迎えます。

浮野の里のクヌギ並木遊歩道入口（うきや橋付近）から北へ40～50mほど行くと、右手に約1,000平方メートルに渡り黄色いじゅうたんを敷き詰めたようなノウルシの群生が見られます。

ノウルシの保護をはじめ、浮野の里の貴重な自然環境を守り後世に残していくため、地域の有志により結成された市民活動組織「浮野の里・葦（あし）の会」により保全活動が行われています。

毎年、市外や県外からもお問い合わせをいただいている、「浮野の里」の風物詩です。ぜひ一度、足をお運びください。

1 と き 4月初旬から中旬頃まで

2 と ころ 『浮野の里』加須市北篠崎地域

「浮野の里」のノウルシの様子



※ノウルシの保護のため、ご観覧は木道からとし、自生地への立ち入りはご遠慮ください。

ノウルシとは：

埼玉県が絶滅危惧Ⅱ類に指定しているトウダイグサ科の多年草です。茎の先端に黄色く色づいているのは苞葉（ほうよう）という葉の一種ですが、まるで黄色い花びらのように見えます。

ノウルシの茎を折ると白い乳液がたくさん出てきますが、これに触れると強い刺激があり、ウルシにかぶれたような症状になることがあります。